

令和6年度第1回中央区緑化推進委員会 議事概要

【開催日】

令和6年8月28日（水）

【出席者】

学識経験者：鈴木委員長、木下委員

区民・事業者代表：中島委員、岸本委員、田中委員、吉山委員

区職員：生島委員、三留委員、早川委員

事務局：水とみどりの課

【配布資料】

- ・資料1-① 令和5年度中央区緑の基本計画 計画目標の進捗実績
- ・資料1-② 令和5年度 of 取組状況
- ・資料1-③ 後期の主な取り組み
- ・資料1-④ 令和5年度中央区緑の基本計画 個別施策の進捗実績
- ・資料2-① グリーンインフラ実践ガイド
- ・資料2-② 東京グリーンビズ
- ・資料2-③ グリーンインフラチェックシートの実績について
- ・資料2-④ グリーンインフラチェックシート集計結果
- ・参考資料 令和5年度第2回中央区緑化推進委員会 議事概要

・「緑の基本計画」令和5年度進捗実績及び後期の取組について（資料-1）

	意見内容
田中委員	・資料1-③について、後期の取組として首都高速道路日本橋区間地下化や築地市場跡地開発、KK線の再生など大きなプロジェクトが予定されているが、5年後の進捗はどのようなになっているか。 →（事務局）首都高速道路日本橋区間地下事業は2040年度、築地市場跡地開発については2038年度、KK線の再生については2030年代から2040年代の完了予定であり、5年以上の年月を要する事業となっている。
中島委員	・資料1-①のボランティア参加人数について、企業の参加人数は順調に増えているが、個人に対して参加を呼びかける取組が必要なのではないか。 →（事務局）個人に関しては、登録と解除の出入りが比較的多い状況である。解除の理由としては高齢になったことや、夏の暑さなどがある。月島地域が個人の登録人数が多いなど、地域ごとにも傾向がある。今後もボランティア参加の周知を図っていく。 ・区の施策として緑のネットワーク化を重要視していると思うが、中央区の魅力である数多くの文化財や歴史と結びつけながら取り組んでいくことが大切ではないか。 →（事務局）本区には歴史的、文化的価値がある場所が点在しており、緑や水辺とつなげていく作業は重要である。水と緑のふれあいマップなどにおいて、歴史・文化の要素を充実していくことなどが必要と感じている。

	意見内容
岸本委員	・環境保全ネットワークでは、今秋に道路を清掃するクリーンアップイベントを社会福祉協議会や企業などと一緒に企画している。コースのポイントに文化財を紹介できる方を配置する予定である。緑と文化財のコラボは様々な形が考えられ、ボランティア団体などを活用しながら取り組んでいけるとよい。 →（事務局）様々な団体の活動を参考にマップやルートを作成していきたい。 ・晴海の住民が増えて朝潮運河の遊歩道がよく利用され、憩いの場となっていることを実感している。水辺の利用を絡めた緑の整備がより重要になっていると感じている。 →（事務局）一昨年度に水辺の活用構想を策定し、本区においては、水辺を活用していくことが都市の価値向上につながると感じている。
吉山委員	・後期の取組に記載されている日本橋・銀座・築地の開発については、緑を強く意識したものとなっており、緑化の面でインパクトが大きい。今後5年間に完成するものではないが、大きな変化を向かえることを示せると、中央区の緑化が変わっていくことが見えてくるのではないか。
木下委員	・資料1-②について、緑の表彰制度の拡充の施策は急ぎ実施した方がよい。企業・団体によるボランティア参加人数の増加や、グリーンインフラチェックシートの運用が始まり好事例が増えてきつつある。緑の質を評価していく意味でも好事例を表彰していくことで、表彰を受ける企業等にもメリットがあるほか、他の企業や団体等にも良い影響を与える。 →（事務局）グリーンインフラチェックシートについては良い事例や先進的な事例を汲み上げ、表彰やPRに努めて、全体の緑の質を向上していきたい。
岸本委員	・10月に開催する子どもとためす環境まつりでは、イクシバプロジェクトという団体が出展ブースで芝生の種の植付体験を行う予定である。植え付けた芝生は自宅に持って帰って育ててもらい、育った芝生を黎明橋公園に植えることができる仕組みとなっている。こうしたボランティア団体の継続的な活動のために区の協力をお願いしたい。 →（事務局）公園において様々な活動が行われている中で、区ができることについて支援し、団体の方々に活動の輪を広げていただきたい。現在の表彰制度では概ね10年以上の活動が対象となっているが、制度の充実を図っていきたい。
鈴木委員長	・中央区の小中学校、保育園などの教育施設の緑化は、良い環境のものを整備できていると思う。区による取組であっても良い事例はPRしていくことがモチベーションにつながるのではないかと。また、教育における取組や環境づくりも含めて一体的に緑の基本計画の中で捉えていけると良い。
三留委員	・土地の確保が困難な本区では施設整備において、様々な機能を持たせる中で環境や緑を意識した計画としてきている。事例の紹介、周知について上手い見せ方を検討していくべきである。

・グリーンインフラに関する最近の動向について（資料-2）

	意見内容
岸本委員	・建築物の緑化において多種多様な植物が取り入れられたとして、一般の方が気づくことが難しいためPR方法を工夫することが大事である。グリーンインフラチェックシートの項目として、PRの取組についても加わると良い。
鈴木委員長	・チェックシートについて、効果があるものとしていくために更新を重ねていくべき。その際はバージョンの表記をしてほしい。
木下委員	・資料2-③の選択項目の傾向において、「創出」に関する取組が「維持・利活用」に関する取組よりも多く選択されたことに関して、緑の創出の際には本来、維持管理のことも考えているはずであるから、計画段階で構わないので積極的に記入してもらうべき。 ・グリーンインフラチェックシートを使った建築計画について、企業等にとってもPRに

	意見内容
	なることから見える化を図ってほしい。 →（事務局）創出と維持管理については一対のものであるため、事業者との協議の際に案内をしていくとともにチェックシートの改定の際にわかりやすいものになるよう検討していきたい。見える化については優良事例の紹介などをしっかりやっていきたい。
田中委員	・グリーンインフラという、緑陰や雨水の浸透など計測が可能なものが思い浮かぶが、緑をとおした交流やコミュニケーションなどを評価できるような指標があるとよい。 ・銀座のビルの屋上でコウゾ(和紙の原料)を育て銀座産の和紙を作り、その和紙を使った水墨画や書道の作品展を行った。中央区は文化的なつながりをもつ地域でもあり、こうした緑がもつ多様な意味・価値を見せていくと良いのではないかと。
鈴木委員長	・都心部や中央区では公園やデパートの屋上などの緑があるところで、お弁当を食べている人が多い。こうしたことも数字では見えにくい、緑の価値や指標のひとつとして考えられる。
木下委員	・田中委員、鈴木委員長の意見については、チェックシートでいうと利活用の分類になる。緑をとおした人と人の心のつながりなどいろいろな成果が出てくると思うが、今後利活用の分野に関して拡充をさせていったほうが良い。 ・チェックシートについて、広域的な緑のネットワークを意識して、事業敷地との位置関係からそこでやるべきことを考えるのは大事なことであり、チェック項目に加えられると良い。